

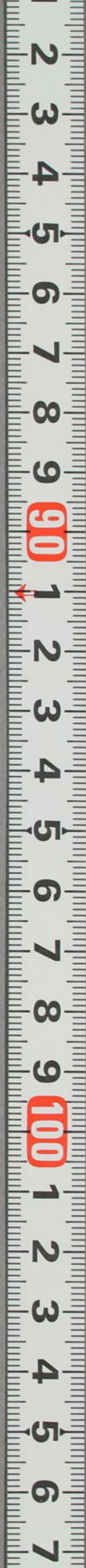


Emperor Jai Tsung's
Visit to Hades.

~~3~~

3

^13
3843
3



門へ13
號3843
卷3

繪本西遊記初編卷之四

前章之下



陳光蕊が妻温嬌のおのひ設けぬ賊に陥りけりき月日と経
 たりけし時既に光蕊が胤と身に胎しぬまはけ子出生の後海
 河も身と投て死といふ死よくなるといふところを突り劉洪
 の刃とまうせおのひ辰投月を送りたる一日劉洪外に出る苗玉の
 間に忽ち産の氣法きて同絶し玉のどき男子を生りけし時
 夢ともなく現ともなく耳のほとり人声あつて吾は是南極星君
 なる観音菩薩の作と受け見と你にけりなる後かゝるに
 名と世強とて且又你が夫光蕊の龍王の救ひを得て今龍宮

繪本西遊記初編四



温嬌生
兒流子
江中





光遠

温嬌



玄奘 遭母 復父 之讐

玄奘

鄧洪

開山

の舉止言談と見るに亡夫光苾に似たりやとてその姓
名と同一不妄則父母の姓氏身の不幸に多し事と審らに拘
滯りかの血書とぞり出して見せられ温嬌おどろき懼る事へん
かこなくあひ付了そ眞の吾子なりとて親見一知に相抱て啼泣
温嬌やろの賊夫劉洪は事と漏すばかり度你と殺とて一は
やく金山寺にゆるごとそ玄奘と送下か其後佛系にとそ
なぐ金山寺にゆくを長老玄奘に對面して事の次第とぞしく
物語り遂に玄奘と長安の都に登り丞相殷用山に依て子細
に是と訴まへ太宗皇帝認りて早くは賊と誅とて下
知しよば殷用山自ら御林の軍六萬余騎を引率しに加ふ
進發し賊の衝とひしくと取かこ劉洪李彪の兩人を生捕り

むらうは事各二百李彪が首斬て大路に梟とせ劉洪と引きた
洪江の流に到り前年陣先苾と殺しつる處におるく活まら
ら劉洪が肝と斬りてあ中に沈めて光苾が靈と糸かけいとれ
江中に巡海夜叉これと見て忙き龍宮へ走りまうかくと報と
もば龍王やうて先苾と叫ぶ其魂魄と屍の内に納り夜叉
命とて江に送りゆらむ玄奘温嬌殷用山のへんと見と
喜ぶ事限りなく互にまこととてはめ終るとおぼる唯夢れ心地
まろく是源と奔ゆれいゝぬか光苾の昂日萬花店の劉小二
家に來り母の張氏と付ひ返り俱に長安にへく前後の次第逐
一に奏聞しければ太宗皇帝大きに帝感しつて光苾を文
淵殿大學士の職と授け玄奘は洪福寺に在り佛道と修行



李定

張

事 商 二 樵
業 量 翁 漁



巡水夜

せしりも入

老龍王拙計犯天條

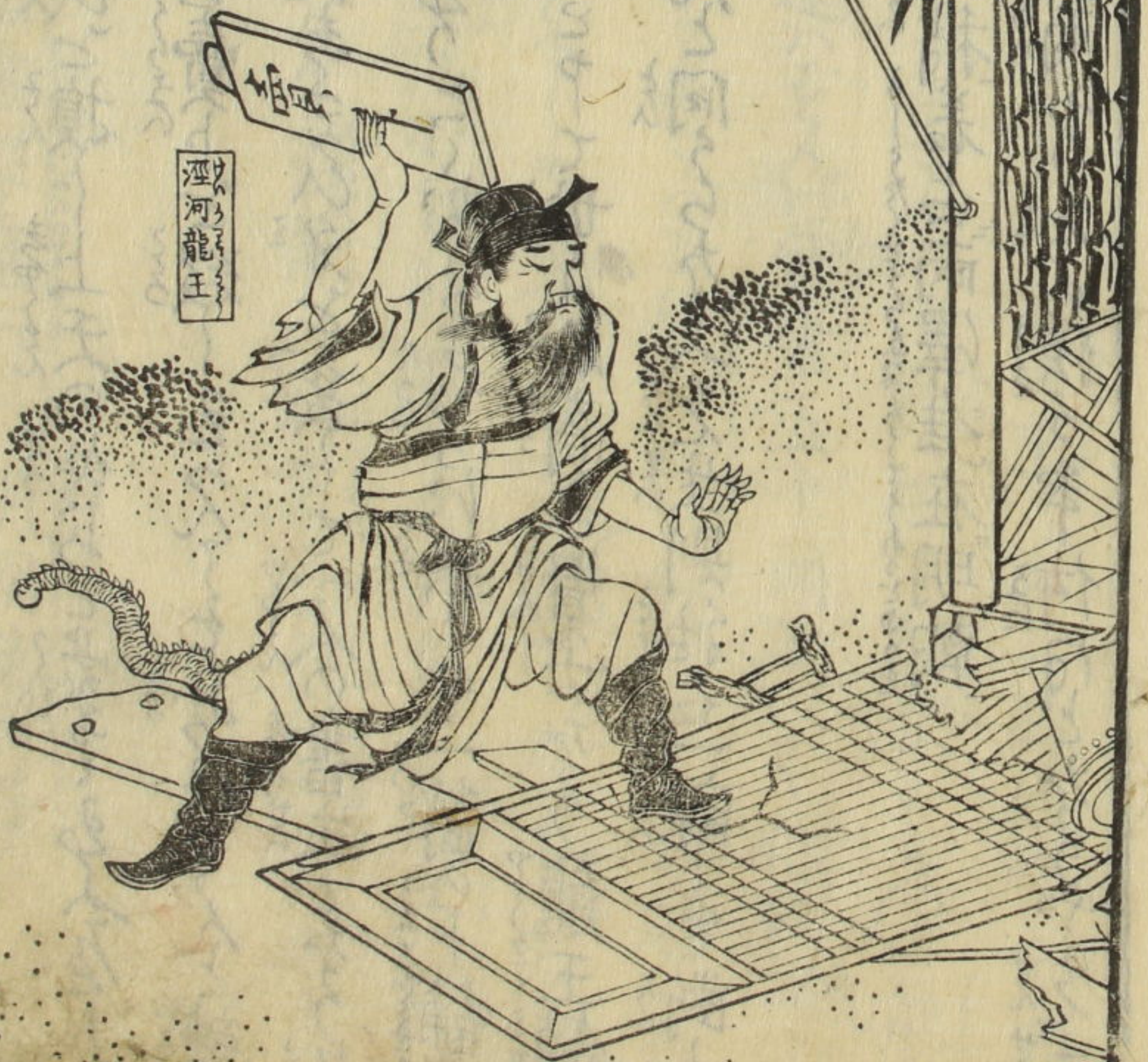
魏丞相遺書託真吏

長安の珠下に兩人の隠士あり一人は漢帛に名と張稍と云ふ
樵まうて名と李定と号り一日兩人長安の酒館にて酔と酔
涇河の岸に至りて相別んとけけけ漢帛の張稍推まの李定
に向ひてやうの古人のるる明日街頭少故人你山にら
虎の害と用心をくく你不慮の事らるる再び吾と俱に酒
館に來り酔と酔と相たのむ期りくく張李定やて怒て曰
你何ぞや我と盟ふてかかのでくかるや我のふたへく虎に害せ
られい你も又浪に遇て水に溺るべし張稍笑て云我ハ一生水に

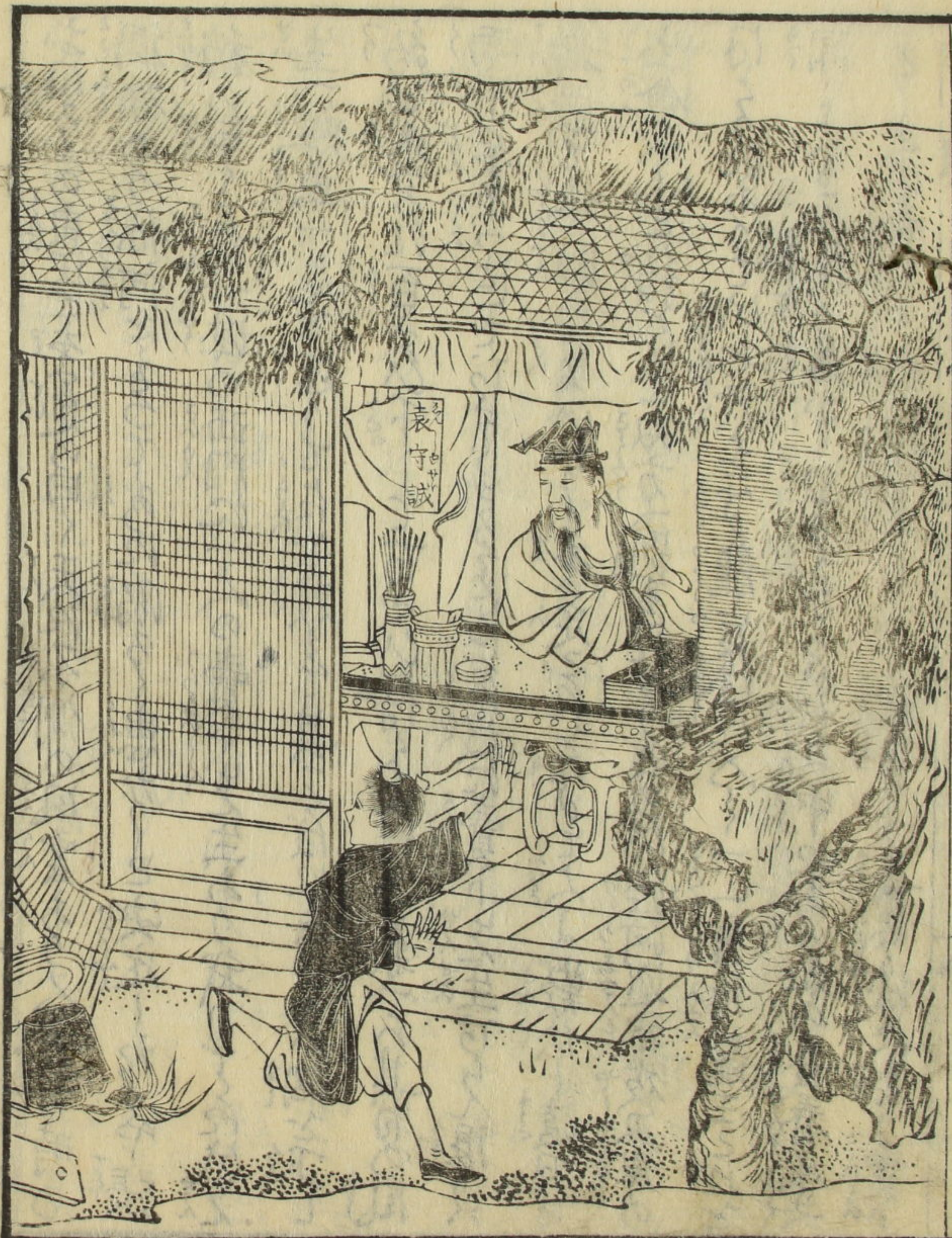
おほろくの患は李定の曰く天に不測の風雲あり人の暫時の
禍福あり你何ぞとてあに溺る患なると決定したるや張
稍の曰く長安珠の西門に一人の賣卜先生あり我日てけけ
生(鯉魚)一尾を送りて占と頼て其てばにまごの網を下し
釣と垂るに百とび下して百とび得るとのりり兼て其日の風
雨晴曇一つじていつらざるには是故に賣卜先生は浪の
我敢て水難の負ひかり李定これをやて大に歎伏し復明日
出會べと釣とは双方(別)にたりこの涇河巡水夜又岸の
ほとりにあつては物語をす龍宮珠にへく一告所龍王これを
聞てよきに憤り着かくのでくかるめの中にある如の吾着属共
くといへ賣卜がぬに捉置さるべし我自ら長安珠に至り賣卜

會本三遊巳刃編四

龍王設計
寺破卜鋪



涇河龍王



絲石西遊記卷之四

者とお殺す。一とて劍と提躍す。おんといふ。あやこの奥臣を推
 とらめてや。なるい大王。今怒りて起して彼所へ出づ。いかに
 供ありて。長安の人民と損じ。上天の外を家す。おんといふ。
 早く方便を。いかにかの賣トと殺す。おんといふ。おんといふ。
 ければ龍王も。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 一人長安の西門に。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 先生姓の袁名。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 まより明日の天氣。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 て曰く

雲迷山頂霧罩林梢。若占雨澤准在明朝。

龍王の曰く。明日何時に雨。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。

の曰く。辰の時に雲起り。この時に雷鳴る。午の時に雨。おんといふ。おんといふ。
 時に雨止。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 の曰く。你其。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 若も時尅。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 人をやど。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 你が公に。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 殊。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。おんといふ。
 其書に曰く

救命八河總
普濟長安城

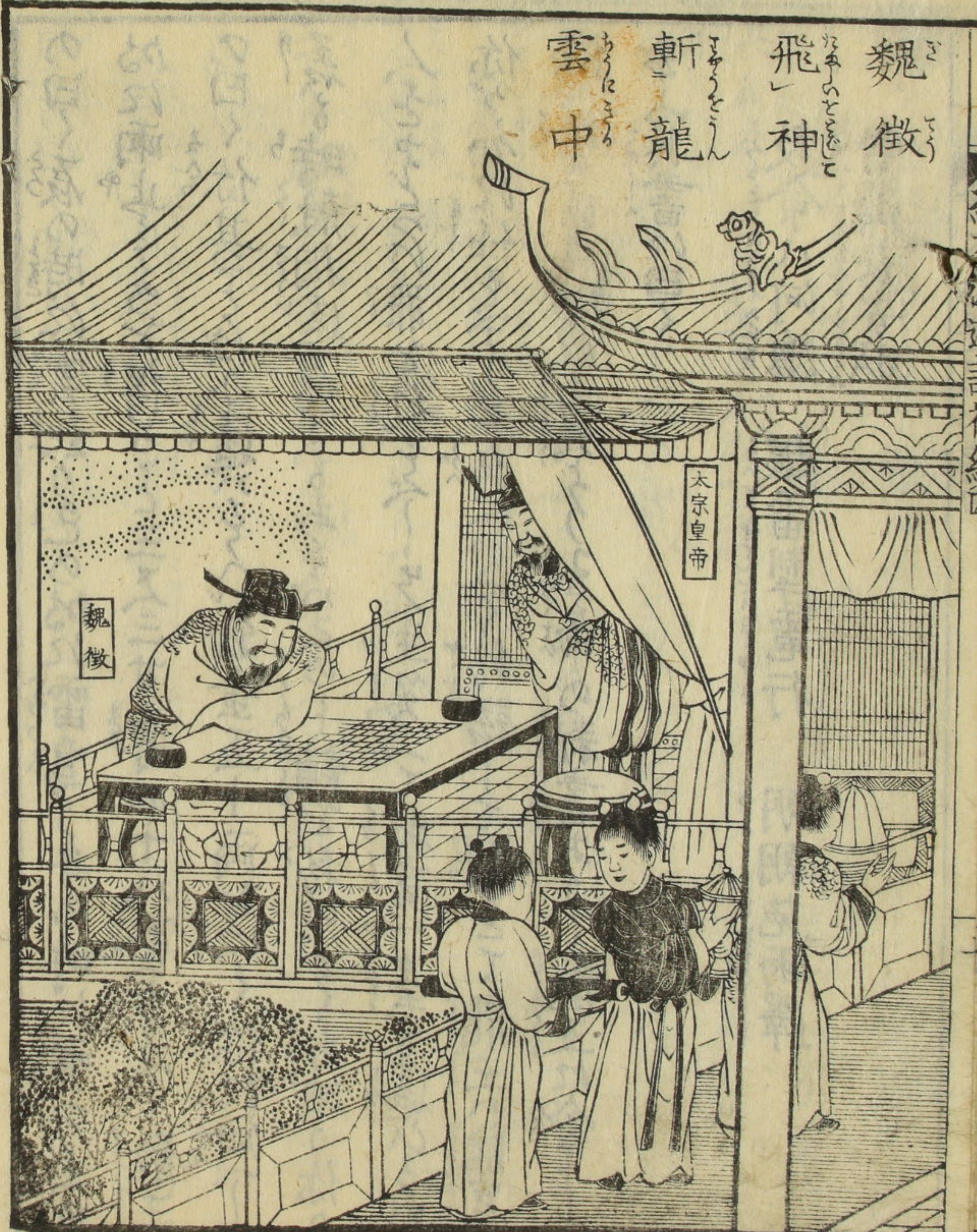
驅雷掣電行

明朝施雨澤

會大... 寺已刀編四



魏徵
飛神
斬龍
雲中



かゝの如く明日長安城へ入城討に詔りて尅限の前後に袁守誠
が判断と一毫も差ひあらざれば龍王を大に驚き塵世の中かゝる
霊人のありたるよ所詮兩を行く時尅と差へるの境を相違せしめ
夫と罪にせしは賣下と矢にぞんばあ族の永き患ひかりんと風伯
雷公雲童電母とらゝつめ事の子細を委しく命下次の日
すゝ書生と身とを變へ長安城に至るゑの刻限を待居たりか
ぬてたゞそこらへ事たれが王帝の命に違ひ已のめに雲次
布き午の時に雷鳴し未の時に雨ふる申の時に止めんとす
るも半三寸零四點袁守誠が占と一時三寸八點と違へると
龍王の先生が卜舖にまゐるともいふ原招牌とす碎き口の
扇と踏孔し大に罵て曰く你妖人今日の雨時刻すごとくく

你が占と相違せり你が死罪と饒をば袁守誠呵呵と可笑ひ
我原来死罪はし你の却て死罪あり你是涇河龍王の書生に
なるとなるなり今王帝の勅に違ひると降との時刻を及び王帝
あなたが罪の軽うらざるを以て明日午の時唐王の臣下魏徴に命じて
你を斬らむぬるに返て吾を罵り辱むるは何事ぞや龍王是と聞
て大に驚き先生あられを伏垂て我を救ひよ袁守誠の曰く
你命を助らんと欲が太宗皇帝にまゐて救をもとむむべし龍王
是にまゐらひ涙をおきて退きまゐる

前章之下

其夜太宗皇帝のまゐり龍王来るかき入でやたるは吾上天の王王

龍王罵
太宗噴
違約



龍王罵太宗噴違約



觀音

涇河龍王

龍王罵太宗噴違約

帝の勅と背き其罪に依て明日午の時陛下の臣魏徴がぬに斬
 ひべしられ慈悲の御心と垂多し吾命令ととひむとらまうと
 奏し奉れむ宗は事と議しむとありひくそむいそらうと宗
 不思議の事におかしりし次の日魏徴が朝に中ととめて圍棋て
 時刻と極しむる時午の三刻にありて魏徴勿心まら頭を低て睡り
 たりが時ありて一人の官人龍の頭を提御前に踏て奏しむるは今
 千步廊の南十字街のとなりけり龍の首雲中より地に落ち
 たりと云き敵境に傳へると奏聞はは時魏徴目之再譯して
 奏しむるは上帝昨夜臣に命とてこの罪を犯せし龍と斬しめむ
 然もども陛下棋と圍んぐ臣と去らしむむととらむ今そら乃
 中に神と云く雲中よりては龍と某が斬殺せりと宗守て扱は

むと限らば其夜と宗の御後龍王に我首を提出來
 と宗と罵て曰く吾昨夜你と約し吾命と救らんと云諾し
 今日却て魏徴とて吾と殺しむ今汝と引て閻王の廳下にあり
 理非善惡とれととと御心と執て引と人たととら如に一人の受人
 雲中より下り楊柳の枝とのり龍王とはらひ除水の方へ去り
 むは是則土地廟に滞るはまた觀音大慈悲菩薩なりと宗
 おとらきそそ見むと是より玉鉢異例にましく御惱目々に重ら
 せむ文武の百官朝に集り今いと名崩御の際とらとせとら
 魏徴御前に進みより奏しむるは臣一封の書と陛下に捧をえ
 陰司にありむるは都判官崔珏とら者にこの書ととらむと
 今陰司にありて生死の簿子と考むとら役人より渠かならば其



繪事紀原卷之四

十一



太宗崩到
閻王宮中



繪事紀原卷之四

十二

書と見て陛下と救ひまづぐし書と封じ奉る宗これ
と取く神袖の内に入り終ひ卒然とて崩じ其時とよとは
いれまづ又武の石官を悲しく暫く白虎殿におめて梓宮を
停りまづ

遊地府太宗還魂

進瓜果劉全續配

太宗皇帝の魂魄都と出てそとも荒らる世と只独り
らもまかのさせ終ひ折らう大唐皇帝暫く待せまやと声をけ
てらの豊都判官崔珏前ちうくとそまより謹で奏しちうは
涇河龍王の事に依り今日陛下は所く来り終くと承り御達の
為多りいと演られ太宗大きによろこびまひかの魏徴書

牒ととり出してよへ終ひ崔珏いらきてて再び奏しけるは
陛下御心を安し其某よきに計ひやがて陽間へ回え
まらんとして清と投りて行に閻王の御達とて青
衣の童子二人幢幡寶蓋とえと道と守護はなごま一ツの
珠門に至りまゝ一面の牌と掛り幽冥地府鬼門關と七宝
金書ありは時閻王陛下と下りて出達し遂に本林羅殿に請り奉
閻王先同く曰く陛下前日龍王の命と救んと約し却て渠は
殺りまゝ何故とそいぞや太宗答のまゝ吾の龍王の命と救
んと計りしかども誰れ知らん魏徴神変ありてまゝに化して
渠と斬らうこれ朕の力及びるふらう閻王の曰くかの龍王未生
こ前既に魏徴がまゝに殺さるべしと我簿子に書ありたり



太宗巡視十八地獄



おもむく渠に來てれいとてやむるにうらうらく陛下と違
 なる誤て我くららとて入たると崔珏とめりて玄宗の所
 命とたづねらる崔珏忙ぎ簿子と申して查べらるに南瞻部州
 大唐玄宗皇帝注定貞觀二十三年と記たり崔珏大きに
 驚き急る事と取く一の字に二畫と副二十三年と改り圖王に
 ちよれ圖王是とて玄宗皇帝降壽命今より後猶二十年の
 寶美ありとてやれ陽間へ還しなむべし但陛下の所妹壽永が
 からざるに似たりよくはきき流るるをそ朱太尉と崔判官
 兩人の命じて玄宗と送りむ玄宗圖王に向て再ね朕陽間へ還ら
 て後此菓と送りては恩と謝しなむべしと約束し遂に朱羅殿と
 出るに朱太尉引魂の幡ととり崔判官へ後に供は轉輪藏

よろむく地獄のありとぬと一くに看せむる十八層の地獄と
 の或火の坑に落ち或の舌と抜き皮と剥或は碓に今是と搗或は
 腸と抽く氷の中身とらり或は油と煎りやれもまらぬ黒暗と
 地獄其外刀山血池阿鼻獄秤杆獄とさあくの刑場ありて
 犯さる罪にまごひ罪人と呵嘖せる鬼どもの間たうへをばけらるそ
 世の人の悪行と積るさあらうにいとせむはに候にられぬ入定とて
 さこそ金銀の橋と候り更ら其傍に奈何橋とて罪人の候る橋を
 寒風吹く人の肌と烈忍血の浪湧りて天も供は紅とはは泣き
 四方にやれ氣も魂も身にさらば玄宗の所ともる行く枉死橋に
 うかれば其途に救万人の餓鬼ともむらがり集り我命と還せ
 我命と還せと叫び玄宗と通しなむべし崔判官奏しけるは



太宗施
 餓鬼諸
 財物



陛下ついでは通とほと快たげく通とほらんとおのひまのけふに十三の庫くらあり内うちに金銀きんぎんと積貯ついくちする是こゝは河南かえん用封ようふう府ふの住人まゐり相良さうらと云い者の金銀きんぎんなる陛下ついで下くだられと借用まかひして餓鬼がきどもに施ねぎすまへと宗むね大おほきによりとひの庫くらより金銀きんぎんと出でさる餓鬼がきどもに分わかちつゝまへに皆みな収こめて通とほらるる宗むねと通とほする行ゆき六道むだう帰かへりて至いたり終おほつて或あるは東西とうせい或あるは南北なんぼくおのがさるる迷まよひ行ゆき陽間やうかん善ぜん悪あくの業ごう因いんによりたりとてつらわれにんまひく逐つひに貴通きとほ門もんより地府ぢふの境さかいと出でまへと朱しゆ太たい尉ゑい一いつ疋ひきの馬うまと牽ひきて來きてと宗むねとのせまより陛下ついで陽間やうかんに降くだりまへと之これの餓鬼がきたがみは水陸すゐりく會あひはかりて冤恨えんこんととひまてと云い終おほつてたがごとくに渭水ゑいすゐの邊へにるるる水庭すゐていより金きんの鯉こい魚いし二につうつとつらわれ遠近えんきんをいそびたまむるをと宗むね馬うまと止とどめり所ところ境さかいにるる朱しゆ太たい尉ゑい大おほ

きた声こゑを扇あふし竹たけをちやく陽間やうかんに還かへるべしといふとありはと宗むねの脚あしととく渭ゑいの底そこに撲つつと突つかたなりは時とき大唐たいたうの朝廷てうていにだんがひアひをえたりと宗むねの百官ひやくくわんを子こ后ご妃ひとくくより逢あひまひ涼暗りやうあんの儀ぎ式しきととてこう執行しやうぎんひまおろしと掖えいの中ちゆうより我われと救すくへくと連つりに叫こゑるる衆しゆうの官くわんと驚おどろきとと掖えいと用もちきて扶たすけ起たりなれりやくに眼めととくは後ごに朕みづか今いま馬うまに乘のりりて渭ゑいの岸きしにまやとらひ鯉こい魚いしの戲たはしととるるしと朱しゆ太たい尉ゑいがみはち中の推おし流りされ已まりおなれ死しせんとせりと落おつるまへ衆しゆう臣しん皆みな曰いく臣しん等らうをえとらひはあり陛下ついで下くだり何なにの水みづに溺おぼれまへと事ことはあらんとととめくいさなり介かい抱ぶしなれは魏ぎ徵しやう則すなはち大おほ醫い院いんとめりて定ま魂ま安あん神しんの御おん茶ちやとととめりし其その夜よは百官ひやくくわん退ひき出でりて翌あした朝あさに至いたりてと宗むね皇こう帝てい遠えんに御おん心しん地ぢ常じやう次じ



太宗皇帝

朱太尉

御製通鑑輯覽卷之四



太宗皇帝
燕生棺中

御製通鑑輯覽卷之四

十九

復一金塞殿に諸臣とめされ陰司の流身を具に御お落あり遂に
非常の太叔を行され天下の罪人四百余人を赦しおのゝ家々に
還らしめよハ皆万歳と唱御代永久と祝しあはる

繪本西遊記新編卷之四終

